令和4（2022）年度 ティーチング・ポートフォリオ 目次

ページ	学科名	職名	氏名	専攻分野
1 ～ 4				※目次と様式
5 ～ 7		学長	松本 秀章	政治学
8 ～ 11	国文学科	教授 / 学科長	神谷 昌史	近代日本政治思想史、教育思想
12 ～ 15	国文学科	教授	平井 むつみ	図書館情報学、学校図書館学
16 ～ 18	国文学科	教授/図書館長	折戸 敏仁	日本古典文学（中古文学）
19 ～ 22	国文学科	准教授	細田 あかね	日本近代文学、明治詩、象徴詩
23 ～ 26	国文学科	准教授	池田 大輔	日本古典文学（中古文学）
27 ～ 29	国文学科	講師	河村 悟郎	文化人類学、社会学
30 ～ 32	国文学科	助教	福井 雄大	図書館情報学
33 ～ 36	子ども学科	教授 / 学科長	平井 敏孝	生活科
37 ～ 40	子ども学科	教授	小林 雅彦	算数
41 ～ 43	子ども学科	教授	松本 文夫	スポーツ科学、コーチング科学
44 ～ 47	子ども学科	教授	大橋 英子	幼児教育
48 ～ 51	子ども学科	教授	伊藤 孝子	社会科教育、幼児教育
52 ～ 54	子ども学科	准教授	松宮 孝明	学校教育学、算数科教育学
55 ～ 57	子ども学科	講師	藤山 あやか	音楽
58 ～ 60	子ども学科	講師	田岡 紀美子	社会福祉学
61 ～ 64	子ども学科	講師	藤本 明美	子育て支援
65 ～ 67	子ども学科	講師	雨森 雅哉	発達心理学、社会心理学
68 ～ 71	子ども学科	講師	利光 奈穂美	幼児教育

令和 4 (2022) 年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 月 日 / 年度末 月 日
氏名	
学科	
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年

②担任制度

担任 (1 年生)		担任 (2 年生)	
-----------	--	-----------	--

③委員会活動

運営協議会		FD 委員会	
研究倫理委員会		SD 委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備 WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 【子ども学科】
個人の教育理念・目標	

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	
授業以外 (学生支援等)	

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

5. 目標（今後どうするか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4（2022）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松本秀章
学科	
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年

②担任制度

担任（1年生）		担任（2年生）	
---------	--	---------	--

③委員会活動

運営協議会	委員長	FD委員会	
研究倫理委員会	委員長	SD委員会	
危機管理委員会	委員長	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	委員長
教学調査委員会		衛生委員会	委員
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	
個人の教育理念・目標	<p>本学の使命 (教育者の養成 (理念)、人間形成 (建学の精神)、地域に貢献できる人材養成 (学則) 等) を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目標としている。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。</p> <p>また、本学としての使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、教員として学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるように努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	
授業以外 (学生支援等)	<p>第一に、学長として、上記「2. 理念」(教育理念、建学の精神、学科の教育理念・目標)が達成されるよう、全学的な教育研究活動の方針を定めている。</p> <p>第二に、学生はもちろん全ての関係者に挨拶することを日常的に意識し、実践している。</p> <p>第三に、学生が体験を通して学修成果を獲得するための実践の場を確保するために、積極的に地域交流に努めている。</p> <p>第四に、特に保育者・教育者を目指す学生が、体験を通して学ぶだけでなく、卒業後に体験を取り入れながら指導できるようになれるよう、「指導」「環境」「安全」に関する学修成果を得られるような講座の開講を予定している。「指導」においては日本キャンプ協会、「環境」においては Leave No Trace、「安全」においては MEDIC First Aid を活用すべく、資格の取得、課程認定団体への登録等への調整に努めている。</p>

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	
授業以外 (学生支援等)	<p>第一に、「2. 理念」や本学の使命が達成されるよう全学的な方針を定めることについては、発信はしたものの教職員への周知に課題があった。</p> <p>第二に、教育者を養成する大学の長として勤めを果たせるよう、まずは意識レベルで容易に実践できる挨拶やコミュニケーションについては、日々実践に努めた。</p> <p>第三に、地域交流の推進を推奨するだけでなく、自らが率先して地域交流に努めた。卒業生とのボランティア活動や、各所への訪問等に成果があった。</p> <p>第四に、体験活動の指導者養成プログラムを構築することができた。しかしながら、その見せ方、本学での位置づけ、周知等々のことは、今後の課題となった。</p>

5. 目標 (今後どうするか)

授業	
授業以外 (学生支援等)	<p>学長としてのリーダーシップや発信、教員としての責務等、総じて小規模のスケールメリットを生かした対話やコミュニケーションを活用したい。メール、会議、ICT等を効果的に使用し、質向上及び業務削減に努めながらも、肝心のところは対話を重視していくことで、様々なことの改善・向上を図っていく。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	神谷 昌史
国文学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	アドミッション・オフィサー

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ (初年次教育)	国文	1
日本史概論	国文	1
現代文化論	国文	1
キャリアデザイン	国文	1
インターンシップ	国文	1
基礎力プログラムⅣ	国文	2
女性文学	国文	2
教育原理	子ども	1
日本国憲法	子ども	2
くらしと政治	国文・子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	FD委員会	
研究倫理委員会	副委員長	SD委員会	
危機管理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	副委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会	委員長	紀要編集委員会	副委員長
奨学生奨学金審査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会	委員	学長推薦	
教学調査委員会	委員長	衛生委員会	
不正調査委員会	副委員長		

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	☒ 有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2024 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>学科長としての理念・目標は、第一に、本年度からスタートする新カリキュラム・新資格の順調な運営を行うことである。第二に、新カリキュラム・新資格をテコとしつつ学科の様々な側面を広報し、魅力をアピールすることにより入学者確保を図ることである。第三に、(常に挙げていることであるが) 複雑化・多様化する学生支援を学科として丁寧に行っていくことである。第四に、これらを遂行するため学科教員のサポートや事務局との連絡を堅実に行うことである。</p> <p>一教員としての理念・目標は、第一に、学生からの相談等には丁寧に対応し、2年間の大学生活の支援に努めることである。第二に、新カリキュラムを回していくにあたって新しく担当する科目も増えていくことにも関連し、教授内容を研究し、教授方法の改善に努めることである。</p>

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

<p>授業</p>	<p>①教授内容の研究</p> <p>この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、授業の形態もオンラインやハイフレックスで行う必要があり、そうした形式に合った内容や方法を研究する必要があったが、今年度はすべて対面で行うことになったため、以前の知見に基づいて行うことができた。そのなかで新しい内容を盛り込むため、書籍や論文による教材研究を行った。</p> <p>②教授方法の工夫</p> <p>①で述べた現状は②においても同様である。とりわけオンラインやハイフレックスではなかなか難しいグループワークを「基礎力プログラム」や「キャリアデザイン」では多めに実施し、学習成果が得られるように工夫した。グループワークが滞ったりうまく進まない集団については適度に介入することで円滑に進行できるようにした。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①新カリキュラム・新資格の運営と広報</p> <p>新カリキュラムや新資格の開始1年目として、学務課等とも密接に連携を図りながら学生に周知し、大過ない運営に努めた。また学科内・大学内の教職員に新カリキュラム・新資格について概要を説明し、広報のためのバックアップを行った。</p> <p>②学科全体での学生支援</p> <p>教員個人による学生支援ではなく学科全体での学生支援を行うため、学科会議をはじめ様々な機会を設け、情報の共有や意見交換を積極的に行った。</p> <p>③学科教員のサポート、事務局との連携</p> <p>学科教員の担当する種々の業務が円滑に進むよう学科教員にできるだけ声がけをし、困っていることを聞くなど、サポートに努めた。また上記①②をはじめとする多くの業務がスムーズに進められるよう事務局の各部署職員と連携を密にするよう心掛けた。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

<p>授業</p>	<p>①教授内容の研究</p> <p>遠隔・ハイフレックスから対面に授業実施方法が戻ったため、以前の知見・経験に基づき授業を行うことができたが、学生の気質等が変容しているため、十分には成果を上げることができなかった。また研究費を利用して書籍を購入し教材研究を行ったが、こちらは一定の成果を上げることができた。</p> <p>②教授方法の工夫</p> <p>上でも書いたようにここ数年の学生の気質や行動パターンの変化を把握し切れず、グループワーク等については十分な対応ができたとは言えない。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①新カリキュラム・新資格の運営と広報</p> <p>新カリキュラム1年目としては特に問題なく運営することができた。広報については入試の志願状況を見る限りうまくいったとは言えない。</p> <p>②学科全体での学生支援</p> <p>教員間での情報共有や意見交換は活発に行われた。JOBセミナーへの教員の運営参加等も行われた。</p> <p>③学科教員のサポート、事務局との連携</p> <p>学科教員のサポートはおおむね問題なく行うことができた。ただし一部の例外もある。事務局との連携も緊密に行うことができ、学科と事務局との意思疎通がスムーズに行われた。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	近年変容を見せている学生の気質・意識や行動を把握し、それに対応した授業の内容・方法を模索する。
授業以外 （学生支援等）	①今後求められる大学・学科の改革に取り組む。 ②変容する学生の気質・意識や行動を把握し、それに対応した学生支援を行う。そのため、学科教員や事務局職員のつなぎ役となれるよう努力する。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	平井むつみ
国文学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
情報資源組織論	国文学科	1年
情報資源組織演習Ⅰ	国文学科	1年
情報資源組織演習Ⅱ	国文学科	2年
情報サービス演習Ⅰ	国文学科	2年
情報サービス演習Ⅱ	国文学科	2年
基礎力プログラムⅠ	国文学科	1年
基礎力プログラムⅡ	国文学科	1年
学習指導と学校図書館	子ども学科	2年

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	
研究倫理委員会		SD委員会	委員
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	副委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	副委員長

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	委員
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>本学の司書課程は、県内唯一の司書養成機関として、専門職としての知識、技能、さらに意識をきちんと身に着けた司書の養成を目指している。それと同時に、国文学科に設置されている課程として、司書の学びを、国文学科が育成を目指している社会人としての力とどう繋がるかを学生自身が意識できるようにする。</p> <p>司書教諭課程については、教諭として、また学校図書館の専門職として、学校図書館を子どもたちの学びに活かせるようになることを目標とする。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>司書の授業では、当然、専門職としての知識・技能の修得が前提ではあるが、昨年度に引き続き、一人一人が、自分が調べたことなどを「人にきちんと伝えられるようになる」ということを大切にする授業を行った。これは図書館の専門職としても必須の能力であり、さらに社会人として重要な力であると考えたからである。昨年度の反省から、今年度はそのこと</p>
----	--

	<p>の重要性を学生にもきちんと伝え、授業に反映できるようにした。また、その一環として、ビブリオバトルの実施や、オープンキャンパスでの展示など、例年より司書課程での学びを外部に発信できる機会を多く作ることを目指した。</p> <p>また、今年度から国文学科で開講された認定絵本土養成講座を、司書の学びをより豊かにし、魅力的なものとするに活かせるよう、図書館とも連携した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>卒業段階で、司書を職業として選ぶ学生は減少してきているが、司書を目指して学習してきた学生に、せめて図書館で仕事をするという経験、そして大学での学びを現場で実践する機会を提供するために図書館インターンシップを実施してきた。今年度は受け入れていただく図書館を今までの長浜図書館だけでなく、滋賀県内に2館、福井県内に1館増やすことができた。今後もできるだけ多くの学生にその機会を提供できるようにしていきたいと考えている。</p>

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>司書課程の授業、特に2年生では、「人にきちんと伝えられるようになる」ということを目標のひとつにしていることを学生に伝えたことで、伝える内容だけでなく、伝え方についての指導もしやすくなったと感じた。ただ、様々なことを調べるに際して、学生たちは年々インターネットへの依存度が高くなっており、また情報の信頼性に対する意識は逆に低くなってきているように感じる。司書になるには、最新の情報技術の習得は必須ではあるが、やはり図書も含めた確かな「情報源」からの情報収集の力を付けなければならず、以前よりその難しさは感じている。今年度、基礎力プログラムⅡにおいても、インターネット、印刷媒体、映像、また現地を訪れて直接お聞きするなど、様々な情報収集を行った。その授業は、グループ活動ではあったが、全員が関わることを大切にした。</p> <p>認定絵本土養成講座の授業もそうであるが、司書課程の授業もまた、国文学科全体の授業とつながることでの相乗効果は大きいと感じている。</p> <p>また、図書館見学、ゲストスピーカーの授業、外部への発信など、外部の人と関わる学習は、学生の学びへのモチベーションを高めるものであることは事後のレポートなどでも確認できる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>今年は、図書館インターンシップを4館に増やし、6人が五日間の実習を実施することができた。4館中3館は実習中に訪問したが、例年のことではあるが、教室とは異なった学生の表情を見ることができた。残りの1館も事前に訪問し、実習内容を詳しく打ち合わせすることができた。</p>

5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>来年度も専門職としての知識・技能の向上を目指すとともに、国文学科の授業とつながることで、社会人としての力もつけられる授業にしていきたい。そして、学生にもそのことを意識しながら授業を受けられるようにしたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>昨年と同様であるが、学生の「司書」になりたいという気持ちに、どのように応えていくことができるのかを考えたい。もちろん「司書」になるための方策も考えなければならないが、たとえなれなくても、その気持ちに応えられる活動が実施できれば良いと考えている。その一環として、インターンシップの受入れ館を増やし少しでも多くの学生が参加できる態勢を整えたい。</p>

	今年度から始まった認定絵本士養成講座についても、司書、国文学科の学びの中にしっかりと位置づけられればよいと考えている。
--	---

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	折戸 敏仁
国文学科	教授
学科以外の兼務職	図書館長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
日本文学史	国文	1
中古の文学	国文	2
俳句	国文	2
近現代文学講読Ⅱ	国文	1
学校経営と学校図書館	子ども	2
読書と豊かな人間性	子ども	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	FD委員会	委員
研究倫理委員会	委員	SD委員会	
危機管理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	日本文学や日本語について幅広い知識と教養を身に付け、社会で自立できる人材の育成を目指すことを教育の理念としている。 また、その具現化へ向けて、日ごろの授業においては学生が興味関心を持って自ら学び深めることができるよう多様な題材を提示するとともに、発表やディスカッションを通じて主体的な学びができるよう展開の工夫を行っている。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	「近現代文学講読Ⅱ」の授業においては、学生がそれぞれ担当する作品について課題をもとに資料を作成することで基本的な知識と読解の方法を身に付けるとともに、それを発表し、質疑応答を行うことを通して論理的思考力や説明力、コミュニケーション能力を養うなどして、主体的な学びができるよう授業展開を工夫した。
授業以外 (学生支援等)	担任として年に数回、あるいは必要に応じて適宜、学生と面談を行い、学生の現状、困り感などを傾聴し、できる限り本人が自ら解決策を考えることができるよう支援した。また、2年生の就職活動においては学生の求め等に応じて面接練習、志望理由書の指導などに時間のある限り対応した。

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	授業アンケートにおいて、文献資料検索などをもとに情報収集力、情報選択能力を身に付けた、発表資料作成により作品を精読する力が身に付いた、グループで協力してレジュメ作成ができた、読解に際して固定観念を持たないことが重要であることを理解した、などの感想が得られたことにより、学生が主体的に学んでいることを把握できた。
授業以外 (学生支援等)	現2年生の就職活動においては、1年生時から準備し、対応していた学生がほとんどであったため、面接練習や志望理由書の指導なども計画的に対応することができ、早い段階で就職先が内定した学生が多かった。

5. 目標 (今後どうするか)

授業	「近現代文学講読Ⅱ」の授業に限らず、学生が課題について調査・発表し、質疑や意見交換を通して課題解決ができる場を適切に設け、主体的に学び深めていくことができるよう引き続き授業展開を工夫する。
授業以外 (学生支援等)	現1年生の就職活動については、学生個々の活動状況に差があるため、面談を通して助言するとともに、就職担当者の支援を仰ぐよう助言し、早め早めの対応ができるよう支援する。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	細田 あかね
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	ALO

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
近代の文学	国文	2
近現代詩	国文	2
近現代文学講読Ⅰ	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅣ	国文	2
日本語学Ⅰ	国文	1
日本語学Ⅱ	国文	2
絵本の世界Ⅰ	国文	1
児童文学	子ども	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

委員会名	役職	所属	備考
運営協議会	委員	FD委員会	委員
研究倫理委員会		SD委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	副委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	副委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	

教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>自らの専門分野である日本近代文学の教授を通して、学生が思考力、表現力、主体性等の汎用的能力を身につけるための教育を行う。授業のなかでは、学生が与えられた問いではなく、自ら問いを設定し、先行研究の調査と自らの分析を経て自ら結論を出すという過程を体験することを重視する。</p> <p>具体的には、近代文学研究における多様な分析の方法を伝え、それらを用いて自らで作品解釈できる力を養成する。このような学生が自らの考えを持つに至るプロセスには丁寧にに関わり、学びを支援したい。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>①発表レジュメ作成のための資料収集の手引きの活用</p> <p>近代文学研究の発表レジュメを作成する際に必要となる資料収集のための手引きを作成し、学生に配布した。これを基に、各自で同時代評や先行研究を調査し、研究史を把握することができるようにした。また、それらを踏まえて自らの問題意識を設定し、そのテーマで自ら調査を進めることができるよう指導した。</p> <p>②分析手法の指導</p> <p>文学史上に定評のある作品を取り上げ、個々の作品に即して、文学作品の分析方法を具体的に伝えた。批評理論に基づく物語言説に注目する方法、コンテキスト（歴史的、文化的背景）を再現したうえで作品を読む方法、本文の異同に着目する方法など、主要な手法を教授した。そのうえで、学生がそれらのツールを用いて、自らの作品解釈＝〈読み〉を立ち上げられるように指導した。</p> <p>③演習発表の事前相談とフィードバック</p> <p>演習発表の後は、必ず意見交換の場を設け、その後、教員による講評を行った。その際は、あらかじめ示したルーブリックの評価項目に関連し、主にどの点が優れていたかを伝えるようにした。また、演習発表にあたって事前相談も行い、個別の内容に即して、発表内容を充実させるためにどうすればよいか、助言する機会を設けた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①委員会活動</p> <p>認証評価受審にあたり、本学 ALO として報告書の作成、面接調査の実施に関わる学内調整業務を行った。自己点検・評価委員会では、自己点検・評価の年間の流れに基づき、学内の点検の統括を行った。</p> <p>②研究活動</p> <p>ゼミの取り組みについて論文にまとめ、紀要に投稿した。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>①思考力の向上</p> <p>学生が先行研究と自らの考えをつき合わせることで、自らの思考を深めてく様子が、演習発表の事前指導や発表の中で見受けられた。</p> <p>②主体的学習態度の獲得</p> <p>授業アンケートの結果からも、授業外での自主学習の時間を長く取っており、主体的に学ぶ姿が確認できた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>認証評価では、評価員より円滑な評価ができたとの評価を得た。また、受審のなかで、本学の内部質保証の取り組みに対し優れた試みと積極的に評価して頂いた。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	池田大輔
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
古典文学講読Ⅰ	国文	1
古典文学講読Ⅱ	国文	1
文章表現	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
伝統文化Ⅰ	国文	2
伝統文化Ⅱ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
基礎力プログラムⅢ	国文	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	FD委員会	
研究倫理委員会	委員	SD委員会	
危機管理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	委員長
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	副委員長
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	担当
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ (無)
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っている。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探求する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。</p> <p>また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導している。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛けている。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>「自己価値・判断力・言語化能力の涵養」するために、教員が一方的に講義するのではなく対話、考えの共有することで、受講者に知的刺激、知的闘争を促した。</p> <p>そのためのプラットフォームとして、Google Classroom に毎授業「講義資料」(PDF)「講義動画」(非公開 YouTube)「リアクションペーパー」を基本とした授業設定を行った。</p> <p>具体的な方法として、各授業には「授業テーマ」(たとえば、和泉式部の立場はどういったものか)を設定し、授業の最後には一応教員の見解を示し、それを踏まえて「リアクションペーパー」を提出してもらう (Google Classroom を活用し提出は次回授業の2日前まで)。「リアクションペーパー」の記述内容は、自由形式であるが、講義テーマを記載する項目を設けることで、振り返りをしやすいように作成した。提出してもらった「リアクションペーパー」には点数とコメントを付して、授業開始前までに返却し、次の授業開始時に、他者の意見や見解を共有することで知的刺激、知的闘争を図った。当然、提出してもらった文章の添削も含めて、点数化、返却を行った。点数化は、返却された際に受講者自身が、なぜ減点されているのかを意識させる効果を狙っている。</p> <p>「講義動画」は、Microsoft Teams で授業を録画したものを、授業当日中に YouTube にアップロードし、受講者のみが視聴できる非公開設定にすることで、受講者が振り返りをしやすいようにした。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>授業外での学生との関わりは少ないかと思われる。学生に対しては、何気ないことでも声掛けをするようにして、何かあれば話しかける、相談できる姿勢を示している。特に、ゼミでは、5・6人と少ない受講者なので、授業の前後で話をしたり、聞いたりすることを大切にしている。</p> <p>今年度は、「国文学科1・2年の交流」として、平安時代に食されていた索餅(七夕のお菓子)を「作って・食べる」ことを、昼食時間を利用して調理実習室で行った。</p>

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>学期末に実施する授業アンケートでは、Google Classroom を活用した授業設計に対し、概ね好意的な意見ばかりで、反対意見はなかったので、一定の評価に値すると思われる。</p> <p>また、受講者の知的刺激、知的闘争を促すことについては、「リアクションペーパー」をもとに実践したが、授業開始時に紹介した他者の意見をしたことで、自分の考えを深め、更にもその先の考えを引き出していることが多々見られたので、成功していると言える。</p> <p>「リアクションペーパー」の点数化とコメントを付して返却することについては、意識する受講生と意識しない受講生に分かれるため、前者は問題ないが、後者の場合、毎回「同じコメント」を付しても「確認していない」ので、毎回同じ減点対象となっていることが多い(この場合、授業内で指導することになっている)。定期的に指導ができる契機となるので、課題がある受講者の可視化には繋がる。</p> <p>「講義動画」(非公開 YouTube)については、視聴回数を確認することが出来るが、科目によって視聴回数にばらつきがみられるが、こちらはあくまで対面授業の補足として活用しているので、このままでよいと思われる。また、欠席した受講者の為にも記録として活用していく。但し、定期試験前になると視聴回数が伸びる傾向にあるので、復習に活用していると考えられる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生から大きな相談を受けることはなかったが、日常的に話かけられたり、対話したりする機会はあった。</p>

	<p>「国文学科 1・2年の交流」については、自身も甚兵衛で、学生にも浴衣で楽しもうと声掛けをし、七夕気分を堪能する機会を提供することが出来た。また、昼食時間前の 2 限に授業がない 2 年生に準備をしてもらい、2 限終わりの 1 年生が来て、一緒に楽しむことができた。国文学科らしく日本文化を起点とした交流の場を学生に提供することが出来た。当日の様子は、本学ホームページ（文教 SMILE ブログ【国文学科 6】）で公開している。</p>
--	--

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>対面授業を補うプラットフォームとしての Google Classroom、Microsoft Teams は、今後も活用し、受講者の知的刺激、知的闘争の材料とすることで、「自己価値・判断力・言語化能力の涵養」に努めていく。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>いつでも話を聞いてもらえる、話をしにいけるという姿勢は今後も示していく。 また、索餅づくりは交流の場にはなったが、短い時間だったためバタバタしてしまった。次年度は、もう少し時間的余裕がある時間帯に設定して実施することを検討する。今後も、国文学科らしい「交流の場・機会」を提供していくことを模索する。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 4 (2022) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	河村悟郎
国文学科	講師
学科以外の兼務職	グローバルセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ (初年次教育)	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
映像文化論	国文	1
女性文学	国文	2
現代の文学	国文	2
英語コミュニケーション	国文	2
英語コミュニケーション	子ども	2
インターンシップ	国文	1

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	
研究倫理委員会		SD委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	副委員長	ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	副委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	担当
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>個人の教育理念・目標は、「基礎力プログラム」に限らず担当する全ての授業において、学生の「読む・書く・話す・聞く・調べる」といった基礎的技能を向上させることを意識することで、単に知識や教養の習得のみを目的とするのではなく、実社会で役立つ力も身に付けさせるように工夫することである。</p> <p>兼務職であるグローバルセンター職員としての個人目標は、2年ぶりに国文学科に入学する外国人留学生に対して、学業面での指導はもちろんのこと、生活指導や進路支援などのキャリア支援についてもきめ細かな対応を心がけることである。</p>

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	各担当授業時や課題に取り組んでもらう際に、出来る限り自分の考えを自分の言葉で表現させるようにすることで、基礎的技能を向上させつつ実社会で直接役立つ力が身に付くような講義をデザインしている。また、教員が一方向的に知識を教授するのではなく、ディスカッションやフィールドワークを交えることで双方向型の授業スタイルを意識し、学生が自ら考える姿勢を尊重し、物事を論理的に考える力を身につけさせている。
授業以外 (学生支援等)	秋学期から国文学科に入学した外国人留学生に対して、担任面談や授業を通して、学業支援・生活支援・進路支援などのキャリア支援を行なった。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	全体として、「担当する全ての授業において、学生の「読む・書く・話す・聞く・調べる」といった基礎的技能を向上させることを意識することで、単に知識や教養の習得のみを目的とするのではなく、実社会で役立つ力も身に付けさせる」という目標を概ね達成することができた。特に、社会人基礎力の習得を1つのテーマとする「基礎力プログラムⅡ」では、昨年度に引き続き今年度もびわ湖東北部地域連携協議会が主催する「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」に参画し、「長浜市の魅力を文化面から発信するハンドブックの作成」という、他者と協働しながら自ら問いを設定する必要がある課題に学生が主体的に取り組んだことで、ディスカッション能力・他者との協働能力・課題発見力・情報発信力などの実社会で直接役立つ力を養成することができた。
授業以外 (学生支援等)	2019～2020年度に在籍した外国人留学生への学業・生活・就職支援の経験を活かし、秋学期から国文学科に入学した外国人留学生に対して望ましい支援を行うことができた。また、本学の強みである就職率100%の継続的な達成のために、国文学科2年生に対して積極的に面接練習や集団討論練習などの就職支援を行い、昨年度よりも早い段階で国文学科の内定率を上げることができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	滋賀文教短期大学における4年間の教育経験を活かし、今後も学生に寄り添った教育を展開していけるよう、授業内容や授業方法を工夫していきたい。
授業以外 (学生支援等)	滋賀文教短期大学における4年間の学生支援での経験を活かし、学生が実社会で役立つような力を身に付けられるよう、今後も様々な形で学生支援に取り組んでいきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 4 (2022) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	福井雄大
国文学科	助教
学科以外の兼務職	キャリアデザイン係

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、副学長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
情報リテラシーの基礎	国文	1
図書館情報技術論	国文	1
基礎力プログラム 1	国文	1
図書館情報資源論	国文	1
学校図書館メディアの構成	子ども	2
情報サービス論	国文	1
情報リテラシー	子ども	1
生命と人間	国文・子ども	2
図書館サービス概論	国文	1
情報メディアの活用	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	無	担任 (2年生)	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		入学者選抜委員会	
研究倫理委員会		広報委員会	
危機管理委員会		高大接続・連携委員会	
自己点検・評価委員会		保育・教育実習運営委員会	
認証評価準備委員会		ハラスメント防止委員会	
図書委員会		教育資格審査委員会	
学生委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
キャリア支援委員会		授業料等減免者審査委員会	
教務・カリキュラム委員会		奨学生奨学金審査委員会	
再課程認定申請 WG (教務・カリキュラム委員会)		学生調査委員会	
教務マネジメント推進 WG (教務・カリキュラム委員会)		教学調査委員会	

国文学科新課程準備 WG (教務・カリキュラム委員会)		不正調査委員会	
FD 委員会		紀要編集委員会	
SD 委員会		教育実践演習運営委員会	
地域連携委員会		学長推薦委員会	
空間創造事業 WG (地域連携委員会)			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	担当
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無 (現時点)
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究(B)
期間	2019-2023 年度
助成金額 (期間中合計)	2,600,000 円
研究課題	公共図書館の多様な活動を評価する統合的指標の開発
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	新カリキュラムを着実に運営し学生の学習成果獲得に努めるとともに、学生の指導・支援に注力する。
個人の教育理念・目標	社会に出るにあたって不可欠な情報リテラシーの育成を主眼として、司書課程においては図書館の視点や多様な業務を受け止める上での下地を作る。そのために、学生の興味関心に寄り添い学習意欲の刺激に力を尽くし、柔軟な授業設計を適宜行う。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	学びの動機付けを重視し学生にとっての身近な話題を授業に取り入れ、個人へのコミュニケーションを念頭に置いた授業を展開した。明白な一つの正解の無い課題について学生各自の考えを深めさせる授業構成を徹底し教員が柔軟に舵取りをすることで主体性の養成を図った。また、授業を学生が情報技術に触れる限られた機会と考え、要所で紹介したり授業を構成するものの一部として活用した。
授業以外 (学生支援等)	学生の担任を持っていないため、授業の前後は教室で学生とコミュニケーションを取るよう心掛けた。質疑応答に対しては基本的に当方から時間の制限は設けず、学生の知的好奇心に応えた。 また、研究活動においては複数の研究課題に取り組んだ。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	授業内容について個別に質問に来る学生も多く、動機付けも十分に機能したものと感じた。 1科目あたり70程度のインターネット上のコンテンツを授業を通じて紹介することで、学生が更新される制度や積み上げられる知見・グッドプラクティス等を共時的に提供し、且つ実践的に参照できるようになるための下地作りを図った。 授業評価アンケートの内容には意欲的に取り組めたという意見もあったが、一部の学生からは授業の進行等について注文があり、今後はより学生の要望に添った授業に改善したい。
授業以外 (学生支援等)	昨年度より教室の内外で学生と話す機会が多くあり、学生生活や授業について忌憚のない意見を交わすことができた。 学会活動に精力的に参加し、研究活動においても進捗があった。成果の一部は今年度発表したほか、他のものも随時発表する予定である。

5. 目標（今後どうするか）

授業	学生の興味関心に寄り添い学習意欲が高まるよう柔軟に授業改善する。 時間は限られているが、その中で提供できるより良い教育とは何か、模索する。
授業以外 (学生支援等)	授業前後の学生とのコミュニケーションを密にする。 現在抱えている研究課題を昇華し、社会に有用なものにする。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	平井 敏孝
子ども学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I (初年次教育)	子ども	1
教育制度論	子ども	1
教育実習指導 (小)	子ども	1
教育実習指導 (小)	子ども	2
理科教育法	子ども	1
理科概論	子ども	1
生活科概論	子ども	1

②担任制度

担任 (1年生)	無	担任 (2年生)	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	FD委員会	
研究倫理委員会	副委員長	SD委員会	
危機管理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会	委員長	紀要編集委員会	副委員長
奨学生奨学金審査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	委員
学生調査委員会	委員	学長推薦	副委員長
教学調査委員会	委員	衛生委員会	
不正調査委員会	委員長		

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	引き続き、コロナ感染予防をしっかりと行う中で、各講義において、学生が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、学生の資質や能力に合わせた言語活動や観察・実験、問題解決的な学習活動を工夫する。体験活動と言語活動を重視し、グループなどで対話する場面や学習を繰り返す場면을継続的に行い、主体的に学ぶことの楽しさと充実感を実感させる。 子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、学長の意向や関係職員意見の集約に努める事を目標に学科内の情報の共有と協議の充実を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	本年度は、1年を通して対面授業が実施され、観察や実験、問題解決的な学習の場をこれまでよりは多く取り入れることができた。具体的には、感染防止に配慮しながらもグループでの活動や協議、交流の時間を、90分の授業の中に意図的に組み入れ、存在感や授業への参加意識が持てるようにし、主体的に学ぶことの楽しさを実感させるように努めた。
授業以外 (学生支援等)	子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた。コロナ渦での実習等については、事前に関係課や園長会等と連携を図り、積極的な受け入れをお願いするとともに、情報の共有と迅速な対応に努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>学生の多くは、ここまでのコロナ渦の状況の中、高校等でグループ活動や話し合い活動の経験が少ないまま入学してきたように思える。そうしたことから、当初は話し合い活動に参加できなかったり、うまく協力して活動を進められなかったりする姿が見られた。単に場の提供をするだけでは、期待する学びにつながらないことがわかった。</p> <p>そうしたことから、話し合いの役割分担を示したり、成果の交流方法をあらかじめ説明し目標を明確したりにするなど、きめ細かな対応を心がけた。</p> <p>春学期の段階では、成果がはっきりと見えるところまではいかなかったが、学科内で学生の学びの様子を交流する中では、秋学期の授業の中では、グループ活動への参加や交流等、自ら学ぶ姿勢に成長が見られることが報告された。1科目だけでなく、系統的にこうした学びをつなげていくことが大切と感じたところである。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>コロナ感染予防等に関する対応としては、情報の共有が何よりも大切であり、その後の早い対応や指示が求められていた。そうした中では、試行錯誤のところもあったが、事務局等との連携も密に図れ、学生への指示も早く行うことができたと考える。</p> <p>特に実習等外部へ出向いている状況においては、学生も不安であり教職員の早い対応が今後も求められると考えている。</p> <p>また、学生に向けての連絡や指示は、メールが主となるが、常に確認している学生ばかりでなく、どうしても対応が遅れがちであった。学生側のメール確認や返信等の習慣化をより徹底していく必要があると考える。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>観察や実験、模擬授業等を行う授業については、少人数の授業であることから、計画の段階できめ細かな指導を行い、様々な考えに触れさせるようにし、模擬授業やその後の研究協議において学生の交流が活発化するよう心がけていきたい。</p> <p>多人数の授業においては、引き続き90分の中に交流の場を設定し、様々な人との意見交流を経験させることを大切にしたい。その上で、多様な考えを受け入れ、自分の考えを高めていく学びを実感させていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学ぶことが楽しいと実感し、主体的に学ぶ学生の育成には、何よりも本人の学ぶ意欲や資格を取る、卒業をするといった強い意志が必要である。こうした気持ちは入学後においても育てていくことが重要であり、面談や普段の生活の中での交流において、職員の共通理解を図るとともに、個々への声かけや支援の充実に努めていきたい。</p> <p>また、入学段階のガイダンスにおいて、chromebookの扱い方やメール確認の習慣化等を適</p>

切に指導することで、今後も続くであろうコロナ禍での学生支援を密にしていきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	小林 雅彦
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、副学長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅢ	子ども	2
教育方法・技術論	子ども	2
算数科教育法	子ども	1
キャリアデザイン	子ども	1
教職実践演習	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	入学者選抜委員会	
研究倫理委員会	広報委員会	委員
危機管理委員会	高大接続・連携委員会	
自己点検・評価委員会	保育・教育実習運営委員会	
認証評価準備委員会	ハラスメント防止委員会	副委員長
図書委員会	教育資格審査委員会	
学生委員会	湖国カルチャーセンター運営委員会	
キャリア支援委員会	授業料等減免者審査委員会	
教務・カリキュラム委員会	奨学生奨学金審査委員会	
再課程認定申請 WG (教務・カリキュラム委員会)	学生調査委員会	
教務マネジメント推進 WG (教務・カリキュラム委員会)	教学調査委員会	委員

国文学科新課程準備 WG (教務・カリキュラム委員会)		不正調査委員会	
FD 委員会	委員長	紀要編集委員会	
SD 委員会		教育実践演習運営委員会	副委員長
地域連携委員会		学長推薦委員会	
空間創造事業 WG (地域連携委員会)			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	部会長
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ (無)
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的知識や実践的指導力を身に付けさせるため、実践事例や具体的な教材等を用いた授業を工夫し、個々のよさを引き出し、育成と向上に努める。 ・ 教科教育法では、指導案の作成と模擬授業を積極的に取り入れ、実習や現場に出たときに対応できるように努める。その中で、子どもの思考や行動を具体的に描き、それに応じた指導や支援ができるよう、個の学びに焦点を当て、実践的な教師の育成に努める。 ・ 指導要領の主旨や現場が抱える課題などについて、新聞記事、雑誌等を資料として活用した授業を推進する。また、インターネットなどを活用し、保育士や教員になるための学生の意欲や社会で求められている汎用的な資質などについて指導し、校・園での実習や就労時の心構えや実践力を身につけさせ、資質の向上に努める。 ・ 授業や実習・インターンシップを通して、長浜市内の校・園との連携を学生と共に積極的に推進していく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>① Google workspace の活用 Classroom では、課題確認の報告後すぐにコメントを送付したり、質問などにもすぐに対応したりして、課題解決の意欲が持続できるように取組んだ。</p> <p>② ルーブリックの活用 基礎力プログラムⅢ、教育方法・技術論では、ルーブリックを第1回の授業で提示し、学生が学修で足りないものを自覚し、学修を深められるようにした。また、日ごろから科目担当教員で学生の学修状況を交流し、できるだけ個に応じた指導ができるように努めた。</p> <p>③ 実践に即した指導 学生の「授業は教えるものだ」という授業観をより子どもの学びに即した主体的・対話的で深い学びの授業にするため、指導案作成とそれに基づく模擬授業に意識的に取組んだ。</p> <p>⑤ 地域との連携 「基礎力プログラムⅢ」では、保育園、幼稚園、こども園と小学校の連携について、グループごとにテーマを設定し、市内の園の先生方にプレゼンテーションを行った。「教職実践演習」では長浜南小学校で先生に小学校での取組や学校の様子などを講義していただいた。</p> <p>⑥ 現代的な課題に対する指導 今日的な教育課題に対応するため、新聞やニュース、初等教育資料などの雑誌などから情報をピックアップし授業に取入れた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>① 学生支援 授業の中で、気になる学生には声をかけ、Classroom 上でも励ましのコメントなどをしてきた。就職などの相談にも、キャリア支援担当と連携しながら対応した。</p> <p>② 委員会活動 FD委員会では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理・コンプライアンス研修をeラーニングコースで行った。 ・シラバス作成要領、成績ガイドラインに関する研修：動画視聴で行った。 ・学科FD研修を学科ごとに実施した。 ・教育課程レベルの学修成果の査定結果について（教学IR担当との連携）委員会で報告、話し合い、教授会で報告した。 ・学生と教員の懇談会の実施し、授業に対する成果や課題などを交流した。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>① 学生の取組意欲の向上 Classroom での課題提出に関して、適宜コメントを返していったことにより、学生の課題に対する意欲的な取組みが継続していった。</p> <p>② 学生のコミュニケーション力とプレゼンテーション力の向上 授業の中で、意識してアクティブラーニングを取入れ、グループディスカッションやグループワークを行うことによって、コミュニケーション力がついたと感じている学生が多く見られた。また、学生同士だけでなく学外の方に向けてプレゼンテーションを行うことによって、効果的な発表や相手を意識した提示など、様々な工夫が見られるようになった。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>① 出席やレポート提出などに課題のある学生に対しては、機会をとらえて面談等を実施し授業への出席やレポート提出状況などを確認し、意欲を途切れさせないように支えていった。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	教育とICTの活用の授業では、Chromebookだけでなく、電子黒板やデジタル教科書の活用についても研究し、効果的な活用について講義していきたい。 アクティブラーニングについても、より積極的に取入れていく。
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 4（2022）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	松本 文夫
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
体育 I	子ども	1
体育科教育法	子ども	2
健康とスポーツ	子ども	1

②担任制度

担任（1年生）		担任（2年生）	
---------	--	---------	--

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	
研究倫理委員会		SD委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備 WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	指導の中で、知識や答えを一方的に教え込んでいくのではなく、問に対し、自らが考え解を導き出すための、方法や基礎知識を教え、学生の主体性や自らが考え、答えを探していく資質を伸ばしたい。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	模擬授業や各種実技試験時に、ルーブリックを作成し、事前に学生に提示することで、気を付けるべき点や、重要項目を理解させ、技術の習得や理解をしやすようにした。また、評価を上げるために、どの部分を工夫することが必要なのかを「自らが考え、実行する力」の習得に繋げた。
授業以外 (学生支援等)	

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	ルーブリックの活用により、理解や習得のポイントを明確化することができ、その理解度や習熟度の向上につなげることができた。
授業以外 (学生支援等)	

5. 目標 (今後どうするか)

授業	次年度以降も、同取り組みを継続するが、よりポイントを明確化できるような評価項目を追加していく。
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4（2022）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	大橋英子
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育実習Ⅰ	子ども学科	1
保育実習指導Ⅰ	子ども学科	1
保育実習Ⅱ	子ども学科	2
保育実習指導Ⅱ	子ども学科	2
乳児保育Ⅰ	子ども学科	1
乳児保育Ⅱ	子ども学科	1
幼児と言葉	子ども学科	1
保育内容「環境」	子ども学科	1
基礎学力プログラムⅣ	子ども学科	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	FD委員会	
研究倫理委員会	委員	SD委員会	
危機管理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	副委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	委員
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長	担当	小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもにかかわる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探求心をもって保育・教育の分野に広く携わることができる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・ 学生が保育の現場での実践に対応できるように理論と実践の往還を意識した授業を行う。 ・ 習得単位の少ない学生、欠席の多い学生を早期に見つけ、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立ができるように教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行っていく。 ・ 実習への不安軽減のため、できる限り学生に寄り添い面談を重ねていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>○専門的知識・技能の確実な習得を促すために、埋め込み式や重要箇所をまとめて書き入れるレジュメを作成し、聞いているだけでなく、書くことで専門的知識・技能を確実に身に付けるようにした。また、現場経験からの具体的事例・実際に人形を用いての実践・視覚的教材など様々な方法を用いて理解しやすいような授業に取り組んだ。</p> <p>○模擬保育授業においてはループリック評価を取り入れている。ループリック評価は、自己評価と学生間の相互評価としておこない、振り返りや気づきを実習実践に反映させるようにした。</p> <p>○保育現場の知識や経験から具体的な事例を多く用いて、様々な子どもや親対応などを学生が自ら考えることができる授業を行った。</p> <p>○GPA 下位の学生には個別支援指導の機会をもった。また、指導案の作成や実習日誌の記録の取り方などに特に苦手意識や困難感を持つ学生に対しては、時には個別に指導を行うなどできる限り丁寧に対応した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○対面授業の際に声をできるだけかけるようにした。特に欠席が続く学生や課題が出ていない学生、就職先をどこにするか悩んでいる学生などと面談をした。</p> <p>○実習に対する不安な気持ちに寄り添い、できる限り面談をし、不安材料を取り除くようにした。</p> <p>○試験合格者において、保育者として働くことへの悩みや不安を軽減し、生き生きと期待をもって働いていくためのサポート面談を行った。</p> <p>○学生たちと教員が、親子にとっても学生や教員にとっても「安全、安心な環境の構成」を考えコロナ感染予防を徹底して事業計画に沿って「ぶんぶんひろば」を開催した。</p> <p>○高大連携・高校へのガイダンスにおいては、高校生に保育者への関心や魅力、やりがいなど知ってもらうことが大事と考え演習を交えながら行った。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>学生が講義を聞きながら書き込みをすることは集中力を維持できることにつながった。</p> <p>○講義で学んだことを、保育現場を想定した体験活動と連動させた授業は、知識・技能の習得につながり、実践力向上になった。</p> <p>○模擬保育授業でのループリック活用は、模擬保育でどのようなことが求められているのかなど自らの保育実践を見つめることで新たな気づきを見出すことができ、今後の保育実践への効果的な改善となった。学生からは「学生相互の評価をしたことで自らの保育を改善することができた。」という声があった。</p> <p>○学生が一番不安に感じていることは実習であり、実習の中でも日誌や指導案は最も苦労していることである。授業では、何度も繰り返し、学生に伝えて理解させることを試みている。時には個別に指導を行うなどし、できる限り丁寧に対応した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○定期的な面談、呼び出し面談、個別指導など行うことで進路や学生生活全般についての悩みなどを聞き、随時対応することができた。学生理解を深める大切な場でもあった。学生からも個別指導、担任制は高評価である。</p> <p>○就職試験合格者の仕事への不安軽減のサポート面談を行った。様々な不安を抱えていることがわかり、一人一人が生き生きと働けるように、現場経験をいかしたアドバイスをした。</p>

	<p>仕事に対する不安の軽減になったのではと感じた。</p> <p>○コロナ渦においてのぶんぶんひろば開催は、危機管理の大切さ、安心・安全な環境、感染予防についてなど授業で学んだことをフルにいかすことができる実践の場となった。</p> <p>参加してくださる保護者からは、「いつも楽しみにしています。」という言葉をいただいた。</p>
--	---

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>○保育現場との連携を強めた教育活動を展開していきたいと考えている。</p> <p>実際の保育現場に入り込みそこから学んでいくことや授業で学んだ知識・技能を保育現場で応用するような授業形態ができるようにしていきたい。</p> <p>○実習の不安を取り除くためには、負担となっている日誌や、指導案を理解させ、書くことができるようにしていく。今後も個別指導も取り入れながら丁寧な指導をしていく。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○進路変更等気持ちが揺らいでいる学生には早期発見し、担任制、個別指導など学科内で連携し、学科全体で学生を支援していくようにする。</p> <p>○子育て支援の場として地域の方々のニーズは高いので、コロナ渦であっても今後も開催できるように工夫していく。また、開催中の危機管理体制をしっかりと訓練もしていく</p> <p>○高大接続、高校内ガイダンスにおいて、保育者の魅力や職業としての保育者に関心を持ってもらうように発信のさらなる工夫をし、本学への学生募集につなげるようにしていく。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	伊藤 孝子
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅢ (子)	子ども	2
キャリアデザイン (子)	子ども	1
社会科概論	子ども	1
社会科教育法	子ども	1
家庭科教育法	子ども	2
保育内容総論	子ども	1
教職実践演習 (幼・小)	子ども	2
幼児と健康	子ども	2
幼児と環境	子ども	1

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	
研究倫理委員会		SD委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員長
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
学生調査委員会		学長推薦	委員
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育や教育に関わる専門的な知識や技能が身に付くよう、授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れるなど、学生の体験的な学びを推進するとともに、体験的な学びを言語化する場を工夫する。 ・ コミュニケーション力や協働力を高めるために、グループワークや発表などの機会を重視し、実践力の育成に努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>①アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>担当する授業において、グループディスカッションやロールプレイ等の体験的な学びを取り入れるなど、授業改善に努める。</p> <p>②学生のコミュニケーション力・プレゼンテーション力の向上</p> <p>幼小連携・幼小接続について研究する。基礎力プログラムⅢでは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をキーワードにグループワークを行い、幼小接続の具体的な取組みを学生に考えさせる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生支援</p> <p>保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導等を行う。</p> <p>②委員会活動</p> <p>ハラスメント防止のための研修会を開催し啓発を行うとともに、ハラスメントを受けた教職員又は学生から相談等があった場合は、事実関係を調査し、必要な措置を迅速かつ適切に講じる。</p> <p>③研究活動・社会活動等</p> <p>幼児教育や幼小連携・幼小接続に関する研修会・研究会等で講師をすることで、専門分野の最新の状況を知り、それらを学生に伝えるなど、学生支援に役立てる。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>①学生の理解度の向上</p> <p>・授業では、専門的な保育・教育内容を学生が理解しやすいように、プリントを工夫した。各時間の提出物（プリント等）には、できるだけコメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。</p> <p>②学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上</p> <p>対面授業では、アクティブ・ラーニングを意識して授業を行った。特にグループでのディスカッションやロールプレイ等を多く取り入れ、学生が主体的に学べるように工夫した。</p> <p>基礎力プログラムⅢの授業では、幼小の円滑な接続に向けての学習課題を設定し、学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を図った。学生の学びは、長浜市内私立園の先生方に公開した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生支援</p> <p>保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、小論文指導等を行い、公務員試験（幼児教育職）合格や私立園への就職内定に貢献した。</p> <p>②委員会活動</p> <p>ハラスメント防止委員長として、年度当初に、「滋賀文教短期大学ハラスメント防止の取組」の記載内容について検討し、教職員並びに学生への周知を図った。また、ハラスメントに関する研修会を実施し、教職員のハラスメントに対する意識のより一層の向上にも努め</p>

	<p>た。</p> <p>③研究活動・社会活動等</p> <p>米原市・彦根市・東近江市・守山市・草津市などの公立幼稚園・認定こども園・小学校等の研究会で研修講師を務め、専門分野の最新の状況を知るよう努めた。</p> <p>研究会や園内研究会での学びを踏まえ、学生に幼児教育や幼小連携・幼小接続等についての情報提供や助言を行っている。</p>
--	---

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業では、学生の実践力、コミュニケーション力の向上を目指し、グループワークの充実に努める。
授業以外 (学生支援等)	担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。 委員会活動等に積極的に参加し、学内活動に寄与する。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松宮 孝明
学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、副学長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
役立つ文章表現	子ども	1
国語科教育法	子ども	1
算数科概論	子ども	1
教職概論	子ども	1
基礎力プログラムⅢ	子ども	1
道徳の理論と指導法	子ども	1
教職実践演習	子ども	1
国語科概論	子ども	1
教育課程論	子ども	1

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		入学者選抜委員会	
研究倫理委員会		広報委員会	委員
危機管理委員会		高大接続・連携委員会	
自己点検・評価委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
認証評価準備委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
図書委員会		教育資格審査委員会	
学生委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
キャリア支援委員会		授業料等減免者審査委員会	
教務・カリキュラム委員会	委員長	奨学生奨学金審査委員会	
再課程認定申請 WG (教務・カリキュラム委員会)		学生調査委員会	委員
教務マネジメント推進 WG (教務・カリキュラム委員会)		教学調査委員会	副委員長

国文学科新課程準備 WG (教務・カリキュラム委員会)		不正調査委員会	
FD 委員会		紀要編集委員会	
SD 委員会		教職実践演習運営委員会	委員長
地域連携委員会		学長推薦委員会	
空間創造事業 WG (地域連携委員会)			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<p>① 本学の准教授として、第一に、保幼小の教員を目指す学生に対して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を提供し、思考力・判断力・表現力を身につけた社会に有用な人材育成に寄与する。</p> <p>② 第二に、大学の教員として、教育方法や広く教育全般についての研究を深め、論文にまとめ、発表していく。</p> <p>③ 最後に、このような活動を通して、本学の魅力を広く発信し、価値や魅力の向上に貢献する。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>①現場感覚を取り入れた授業の工夫・・・保幼小の現場の授業ビデオ等を活用したりして、可能な限り、小学校現場で38年間教鞭をとってきた経験を生かした。</p> <p>②体験重視・・・講義だけで終わらず、可能な限り操作活動等を取り入れ、体験的な学びを</p>
----	---

	<p>実現した。</p> <p>③ICTの活用・・・Google workspace (Classroom など) を大いに活用し、学生に慣れさせるとともに、授業に有効に活用した。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生支援・・・担任の学生を中心に、設定された面談時以外でも、こまめに声をかけ、困りごと等に対応した。</p> <p>②委員会活動・学科以外の兼務職・・・自己点検・評価委員会では、学科の取りまとめ等を積極的に行った。</p> <p>③研究活動・社会活動等・・・「小学校教員多忙化解消の一提言」についてまとめ、紀要に掲載した。草津市教育支援委員会に学識経験者として参画した。算数科教育で教科書会社の冊子に原稿を掲載したり、オンラインセミナーに参加した。</p>

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

<p>授業</p>	<p>①学生の興味関心、理解度の向上・・・意欲をもって授業に参画してくれたように思う。</p> <p>②学生のコミュニケーション能力の向上・・・授業の中に少人数でのディスカッションを多く取り入れ、自然に自分の考えが語れるようにできたと思う。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生との意思疎通の向上・・・一人暮らしについてのアドバイスなど、きめ細やかにできたと思う。</p> <p>②学科内の取り組みに参画・・・自己点検・評価委員会等を中心に、与えられた役割は果たせたように思う。</p>

5. 目標 (今後どうするか)

<p>授業</p>	<p>①卒業後の現場を意識した授業になるようにさらに工夫する。</p> <p>②体験的な活動をもとに、さらに思考力・判断力・表現力を高める授業の展開を工夫する。</p>
<p>授業以外 (学生支援等)</p>	<p>①学生とのコミュニケーションをさらにきめ細やかにする。</p> <p>②研究活動・社会貢献活動をしっかり行う。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	藤山あやか
学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、副学長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
器楽入門	子ども学科	1
音楽Ⅰ	子ども学科	1
音楽Ⅱ	子ども学科	2
音楽Ⅲ	子ども学科	2
音楽科教育法	子ども学科	2
幼児と音楽表現	子ども学科	1
基礎力プログラムⅣ	子ども学科	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		入学者選抜委員会	
研究倫理委員会		広報委員会	
危機管理委員会		高大接続・連携委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
認証評価準備委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
図書委員会		教育資格審査委員会	
学生委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
キャリア支援委員会		授業料等減免者審査委員会	
教務・カリキュラム委員会	委員	奨学生奨学金審査委員会	
再課程認定申請WG (教務・カリキュラム委員会)		学生調査委員会	
教務マネジメント推進WG (教務・カリキュラム委員会)		教学調査委員会	

国文学科新課程準備 WG (教務・カリキュラム委員会)		不正調査委員会	
FD 委員会	委員	紀要編集委員会	
SD 委員会		教育実践演習運営委員会	
地域連携委員会		学長推薦委員会	
空間創造事業 WG (地域連携委員会)			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	担当
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	☒ 有 ・ 無
助成者	独立行政法人日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	若手研究
期間	2019～2021 年度
助成金額 (期間中合計)	390,000
研究課題	多文化共生社会の実現に向けた器楽教育に関する日独比較研究
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	「幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成」
個人の教育理念・目標	ピアノレッスンを中心とした音楽科目の授業で、2年間を通して系統的な指導を行えるように授業を構成する。また、教員養成課程における学生の実践力を育成するため、地域と連携した教育活動を実践する。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①Google workspace の活用 サイトやドライブを利用して、演奏見本の動画を 60 本以上作成し学生が自主練習の際に繰り返し視聴できるようにした。 ②ループリックの活用
----	--

	音楽の授業では、グレードチェック表の裏にルーブリックを印刷し学生の努力すべき点の理解を促したり、グレードチェック後に学生との面談を行うことでフィードバックを丁寧に行うよう工夫したりした。音楽連絡会を活用し、日頃から科目担当者間で連絡を取って同じ観点で指導し評価できるよう努めた。
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生支援</p> <p>学生の就職対策ピアノレッスンや、実習先のピアノ課題に関する実技指導を行なった。また、個々の課題に対する参考動画を配信するなど、オンラインでもレッスンや質問等に対応した。</p> <p>②委員会活動・学科以外の兼務職</p> <p>高大連携委員会では、担当部署と連携をして業務を遂行した。出前授業では高校側の要望に応じる内容を設定することで連携を図った。</p> <p>③研究活動・社会活動等</p> <p>初等音楽教育および幼児教育における音楽教育について研究を遂行し、著書1冊、論文を4本発表した。また、びわ湖東北部地域連携協議会のWG担当として、生涯学習講座や音楽を通じた地域連携事業を実施することができた。</p>

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<p>①学生のピアノスキルの向上</p> <p>ピアノ未経験者として入学する学生が大半だが、方法に記載したような指導方法を行うことで、現場で必要となるレベルにほとんどの学生が到達して卒業した。</p> <p>②学生の実践力の向上</p> <p>「基礎力プログラムⅣ」の授業で、本学あすなろホールで成果発表会を行なった。学生に主体的に発表会の内容などを考えてもらい、地域の親子と一緒に楽しめるような内容を考えペーパーサートや音楽劇を実践することができた。学生自身も授業での学びの成果を実感しており、子ども学科での2年間の学びの集大成に位置づけた発表会ができた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生懇談会では、ピアノ授業でのルーブリック評価が高評価だった。</p> <p>②所属学会での研究発表と、査読付きの論文の発表で研究の成果を示すことができた。</p>

5. 目標 (今後どうするか)

授業	対面授業では感染対策を講じながら、Google workspace を効果的に取り入れていく。また、引き続きルーブリック評価を行い学生に適切なフィードバックを行う。
授業以外 (学生支援等)	びわ湖東北部地域連携事業(生涯学習講座など)を活用し、本学の教育研究の成果を広く社会に発信し、各教員の専門性を地域に分かりやすくアピールする。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	田岡 紀美子
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅣ	子ども学科	2
社会福祉	子ども学科	1
社会的養護Ⅰ	子ども学科	1
施設実習指導	子ども学科	1
子ども家庭福祉	子ども学科	1
社会的養護Ⅱ	子ども学科	2
子育て支援	子ども学科	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	
研究倫理委員会		SD委員会	委員
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG	WG長	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	担当

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探求心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	保育士・幼稚園教諭として、子どもに関わるのに必要な社会福祉の知識、相談援助技術を修得することができるように、授業内容等を工夫する。また、子ども家庭福祉の視点から子育て世代の保護者の置かれている状況を理解し、相談にのることができるような人材の育成に努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	講義によって必要な知識の教授に努めた。また、講義を通して得られた知識を事例検討やグループ活動を通して、活用できる知識となるような授業展開としている。 さらに、個々の学生がインプットした知識をアウトプットすることができるように、レポートやクラス全体での発表を行うようにしている。
授業以外 (学生支援等)	学生からの質問や実習などの相談を受けた際に、相手（支援を必要とする子どもや利用者）の立場になって考えられるような問いかけを行うように意識している。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	レポートについては、苦手意識を持っている学生も多いが、発表やグループ活動を通して、これまでに得られた知識を活用し、求められた内容で成果をあげることができている。
授業以外 (学生支援等)	学生からの実習等についての相談には丁寧に回答するように心がけているが、成果としては5割程度という状況。半数の学生は、保育者として求められるような報連相が理解できていない様子。

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業展開としては、これまで通り、講義科目であったとしても学生が得られた知識をアウトプットすることができる機会を提供する。
授業以外 (学生支援等)	入学してくる学生集団のタイプを見極める必要があり、そのタイプに沿った関わりが必要であるとする。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月8日 / 年度末 3月1日
氏名	藤本明美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、副学長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育内容言葉	子ども	1
保育原理	子ども	1
保育の計画と評価	子ども	2
保育実践演習	子ども	2
保育者論	子ども	2
子ども家庭支援論	子ども	2
基礎力プログラムⅡ	子ども	1
ぶんぶんひろば	子ども	1
ぶんぶんひろば	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		入学者選抜委員会	
研究倫理委員会		広報委員会	
危機管理委員会	WG	高大接続・連携委員会	委員
自己点検・評価委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
認証評価準備委員会		ハラスメント防止委員会	
図書委員会		教育資格審査委員会	
学生委員会	WG	湖国カルチャーセンター運営委員会	
キャリア支援委員会	委員長	授業料等減免者審査委員会	
教務・カリキュラム委員会		奨学生奨学金審査委員会	
再課程認定申請 WG (教務・カリキュラム委員会)		学生調査委員会	
教務マネジメント推進 WG (教務・カリキュラム委員会)		教学調査委員会	

国文学科新課程準備 WG (教務・カリキュラム委員会)		不正調査委員会	
FD 委員会		紀要編集委員会	
SD 委員会		教育実践演習運営委員会	
地域連携委員会		学長推薦委員会	
空間創造事業 WG (地域連携委員会)			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ○無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	多様な人と対話しようとする力、協働する力を身につけ、子どもと子育てにやさしい社会をつくることのできる人材の育成。 担当している科目を通して保育者としての豊かな感性を育む。また、子どもの最善の利益を第一に考えることのできる人材の育成。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<ul style="list-style-type: none">・担当教科の中で教材研究を深め、アクティブラーニングに基づくプログラム作成を行う。・授業の特性に合わせて学生の豊かな感性の育成を目指し、実践が身につく授業を行う。実践事例として、身近な自然環境から心が動く事象をとらえる眼差しや感じ取る力をつけ、子どもと感動を共有するための豊かな言葉を獲得することができるように試みる。・特に卒業年度の授業では、子どもに関わる総合的な専門的な知識・技能と実践力が習得できるように計画している。事例として、子育て中の保護者をゲストスピーカーに招き、日々の子育てで大変なことや嬉しいこと、地域や保育所などに期待する支援などを聞かせて頂く。学生は地域が抱える課題と保護者からのニーズを理解し、保育者として子育て支援ができるように各自掲げたテーマに向かって学びを深め、保護者が抱える悩みへのアドバイスをわかりやすくまとめたリーフレットを作成する。・多様な人と対話しようとする力、協働する力などソーシャルスキルについては、学生自身の自己課題及び成長したい自分像を明確にしてから授業に取り組んでいる。・評価の視点を学生と共有し、何をどのように頑張ればよいのか目標を明確にすることで意欲があがるようにする。
授業以外 (学生支援等)	学生の状況を理解することに努めつつ、学生の強みをフィードバックしている。 また、学生がより良い自己決定ができるように、学生が持っていない新たな視点を投げかけ、多様な考え方から次のステップに進めるように支援することを心がけている。 自ら援助を求めてこない気になる学生に対して、タイミングを見計らい、エンパワメントできるように心がける。

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	<ul style="list-style-type: none">・アクティブラーニングを基本とすることで、意欲的に参加しようとする態度が顕著であった。・卒業年度の学生は、専門性と実践力が身につき、現場でも学んだことを活かして頑張りたいという意欲を振り返りで記述しているものが見受けられた。 教員から見て、アサーティブコミュニケーションを苦手とする学生が多かったが、グループワークで意識して会話をすることで、「自分の意見が少数派だったが、みなに伝えることができた」という変化がみられた。さらに、保育者が子どもの最善の利益のためにきちんと意見を述べるとともに、組織として合意形成を図る場面を取り入れたワークを行ったが、リーダー的な学生、あるいは多数派の声に流されることなく、対話することが気出ていたのは成果であると感じた。 <ul style="list-style-type: none">・子育て家庭に対する理解や不安解消のための知識や、保護者とのコミュニケーションの取り方など、クラス懇談会の持ち方など専門性に基づいた実践力をつけていった。
授業以外 (学生支援等)	クラスメートとの関係性や、1年生は実習に向けて、2年生は社会にでていくにあたり様々な課題と向き合っている。 どこまでが教員の役割なのかを他の教員とも相談しながら進めていった。

5. 目標 (今後どうするか)

授業	自分に自信が持てなかったり、クラスメートとの関係性で自分らしさを発揮できない学生が社会人になっていくにあたり、さらにソーシャルスキルが身につくように授業の教材研究を重ねていきたい。
----	--

授業以外 (学生支援等)	今後も担任や関係委員会と連携しながら、安心した学びの場を保障していきたい。
-----------------	---------------------------------------

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	雨森 雅哉
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I (初年次教育)	子ども	1
発達心理学	子ども	1
子ども家庭支援の心理学	子ども	2
子どもの理解と援助	子ども	2
教育相談	子ども	2
カウンセリングマインド研究	子ども	2
教育情報処理 A グループ	子ども	2
教育情報処理 B グループ	子ども	2
教職実践演習	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		FD委員会	委員
研究倫理委員会		SD委員会	
危機管理委員会		地域連携委員会	
危機管理運営・体制整備WG		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障がい学生支援WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
学生調査委員会		学長推薦	
教学調査委員会	委員	衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を習得し、向上心や探求心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	私の専門領域である発達心理学を中心に心理学の専門的知識を、保育・教育の現場で活かせるように学生に伝えていく。 座学の授業では、子育ての身近な例や、保育の現場での具体例、小学校での集団生活にありそうな例に落とし込むことで、心の発達に関する概念や理論の理解の助けとしたい。 演習科目においては、たくさんの事例や状況を設定して、ディスカッションやロールプレイといったグループワークを通じて、座学で得られた知識を教育や保育の現場で使いこなす実感を得られるよう努める。 特に心理学という内容から、個に応じた支援ができるような教員・保育士となってもらいたい。また学生に対し、公平さと誠実さをもって接し、教員として社会人として大人として彼らを裏切らないよう振る舞いたい。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>基本的には、授業 → 提出物 → フィードバックという流れで、学習内容を深め、知識の定着を狙った。</p> <p>座学中心の授業では、一つのテーマに対してなるべく多くのコンテンツを用意し、どれかが印象に残り、知識として定着するよう働きかけた。</p> <p>演習中心の授業では、一つのテーマに対して、2つくらいのグループワーク（ディスカッションやロールプレイ）を用意し、なるべく集団で考える時間を多く設定した。</p> <p>特に今年度は、ロールプレイに力を入れた。保育の現場にて起こりそうな問題場面を設定し、グループにてより細かい設定とストーリーを考えさせ、役作り、演技とつなげていった。最終的には発表グループと観衆グループでシェアリングを行い、異なる立場・視点での意見の共有も図った。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学生面談の資料を確認し、注意が必要な学生は担任の先生となるべく情報共有を密にし、なにかあればすぐに対応できるよう心掛けた。</p> <p>また、子ども学科全学生の副担任という立場ゆえ、直接面談をする機会はないので、授業や休み時間に学生と交流できるよう機会を増やす努力をした。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>授業アンケートや学生との雑談の中で、多くの学生は私の授業スタイルと合う、もしくは特に問題はなかったようだが、一部に座学が苦手・グループワークが苦手という学生は苦勞をしたようであった。</p> <p>すべての学生個人の特性や能力に合わせた授業は限界があるので、多くの学生に受け入れてもらえたことは成功だと思うが、一部の学生を取りこぼしてしまうことにもなっているので、フォローアップをどのようにするか今後の課題として考えていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>今年度は本学における勤務2年目であり、2年生とは約2年間の付き合いとなったため、多くの学生の顔と名前が一致し、それぞれの個性もある程度把握できた。なるべく公平に接することができたが、やはり問題を抱える学生とは交流が増え、問題のない・少ない学生と距離感が異なることがどうしても気になってしまう。公教育の観点からも公平性という点でさまざまな学生との交流をもてるような工夫が必要である。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>座学中心・演習中心と各授業の特色を持たせてはいるが、ある程度座学にも演習を、演習にも座学の要素を入れていくことを試してみたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>授業や休み時間の交流だけでなく、メールやGoogleMeet、GoogleClassroomを活用し学生との交流機会を増やす試みをしたい。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 4 (2022) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	利光 奈穂美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
幼児理解と援助	子ども	1
基礎力プログラムⅡ	子ども	1
教職実践演習 (幼・小)	子ども	2
保育内容 (健康)	子ども	2
教育実習指導 (幼) 春学期	子ども	2
教育実習指導 (幼)	子ども	1
教育実習 (幼)	子ども	2
教育実習Ⅱ	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

委員会名	所属	役職
運営協議会	FD委員会	委員
研究倫理委員会	SD委員会	
危機管理委員会	地域連携委員会	副委員長
危機管理運営・体制整備WG	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	広報委員会	
認証評価準備委員会	高大接続・連携委員会	
図書委員会	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	ハラスメント防止委員会	委員
障がい学生支援WG	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	教員採用選考委員会	
教務委員会	湖国カルチャーセンター運営委員会	委員

授業料等減免者審査委員会		紀要編集委員会	
奨学生奨学金審査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
学生調査委員会		学長推薦	委員
教学調査委員会		衛生委員会	
不正調査委員会			

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長	担当	子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額 (期間中合計)	
研究課題	
備考 (分担者等)	

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	「幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成」
個人の教育理念・目標	<p>○建学の精神に基づき、保育者として目の前にいる子どもをありのまま受け止め、一人一人の子どもに応じた関りや援助ができる心豊かな保育者を養成する。</p> <p>○子どもを知り、子どもの内面を理解し、温かいまなざしで愛情をもち関わることのできる保育者としての使命感・責任感にあふれた人材を育成する。</p> <p>○理論的な学修と共に、専門的な知識や技能を身につけ、実践的な能力が習得できるような具体的な指導を行う。保育者としての資質と専門性を高めるため、実践事例や保育映像を活用し、保育カンファレンスやアセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行う。その中で、コミュニケーション能力を高め、「保育者の協働性」の素地を養えるよう、自分の気づきや考えを言葉で表現すると共に、他者の様々な考えや見方を知り傾聴することを繰り返し、体験的な学びを深める授業を行う。</p>

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>◎実践事例や保育映像を活用する授業では、その場面から自分なりの読み取りや考察を行う時間を設けた。保育カンファレンスやアセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行い、自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞いたりし、気づきや学びを共有した。更に、子どもの思いや発達段階、保育者の援助や環境の構成などについて具体的に解説を行い、学びを深められるよう努めた。</p> <p>◎模擬保育授業においてはルーブリック評価を取り入れ、自己評価と相互評価を行い、主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、実習に反映させるようにした。</p> <p>◎各時間の提出物（プリント等）は、できるだけコメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。</p>
授業以外 （学生支援等）	<p>◎保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や論文指導等を行った。</p> <p>◎彦根市公立幼稚園・保育所・認定こども園等の園内研究会や主任研修会で研修講師を務め、学生に幼児教育や最新の現場の状況についての情報提供を行った。</p> <p>◎高大接続、高校内ガイダンス等で、出前授業や大学紹介などを行った。</p> <p>◎FD委員会、保育・教育実習運営委員会、ぶんぶんひろば運営委員会、教職実践演習運営委員会等の委員として役割を果たした。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>◎担当の授業では、保育者としての幼児を見る目や保育者の心構え、姿勢など愛情をもったかわりができるように、繰り返し保育の基本を伝えた。その上で、実際の映像を活用することで、現場経験のない学生にとってはわかりやすく、解説する内容への理解が深まることがわかった。</p> <p>◎模擬保育授業では、実習前後で個々の模擬保育とチーム保育を意識したグループでの模擬保育を経験できるように工夫した。特にチームでの模擬保育は、計画の段階から活発な意見交換ができ、準備や当日の内容など互いに学び合うよい機会となった。現場では、いろいろな保育者と相談し協力し、一つの行事や活動に取り組んでいく。一人で保育するのではなく、他者とのコミュニケーションを取り、意見を交わし、計画を基に保育を実践する力が身に付けられるよう工夫した。</p>
授業以外 （学生支援等）	<p>◎面談や相談、個別指導など行い、学生の思いや悩みを聞いたり、関係担当に連携したりし、学生支援に努めた。</p> <p>◎長浜南認定こども園と次年度の「自然と環境」の授業に向け、打合せを重ねたり、実際に保育観察をさせていただいたりしながら、園との関係を構築した。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>◎授業等において、Google Classroomの活用について、学科の先生方から効果的な活用方法について伺い、学んでいきたい。</p> <p>◎学生が主体的に、意欲的に学びたいような授業の工夫を重ねたい。</p>
授業以外 （学生支援等）	<p>◎高大接続、高校内ガイダンス等で、幼児教育や保育者に関心を持ち、本学への学生募集につながるような発信の工夫をしていく。</p> <p>◎担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。委員会等に積極的に参加し学内活動に寄与する。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和4(2022)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上